

# 特別な支援を必要とする子供への就学前から学齢期、社会参加までの切れ目ない支援体制整備

## 目的

### ○課題

- ・小中学校において、18歳以降の就労や生活上の自立等を見据えて、早期から相談対応するための情報が乏しい。
- ・校園所において、関係機関等と連携する経験やスキルが不十分で、個別の教育支援計画が十分活用されていない。

### ○目的

- ・子どもの状態を正しくアセスメントし、関係機関との連携のもと、早期から自立に向けての支援を進める。また、個別の教育支援計画をもとに、支援者のネットワーク作りを進める。



## 成果

### ○成果

- ・専門性を備えた巡回相談員の助言により、子どもの状態を正しくアセスメントし、個別の教育支援計画の見直し等が図れた。
- ・県立特別支援学校との連携体制強化ができたことをはじめ、関係機関との連携体制が定着してきた。

### ○今後の取組

- ・特別支援教育コーディネーターが校園所内での中心となって、切れ目ない支援体制を継続できるよう、コーディネーターへの情報提供や資質向上を図る。

## 事業内容

### ①特別支援学校教員による、小・中学校の特別支援学級への巡回相談

令和2年度：18回、27名  
令和3年度：16回、27名  
令和4年度：28回、41名

- ・センター的機能の積極的活用等、特別支援学校との連携強化
- ・高等部検討範疇の子どもの把握により、早期からの継続的な相談対応が実現

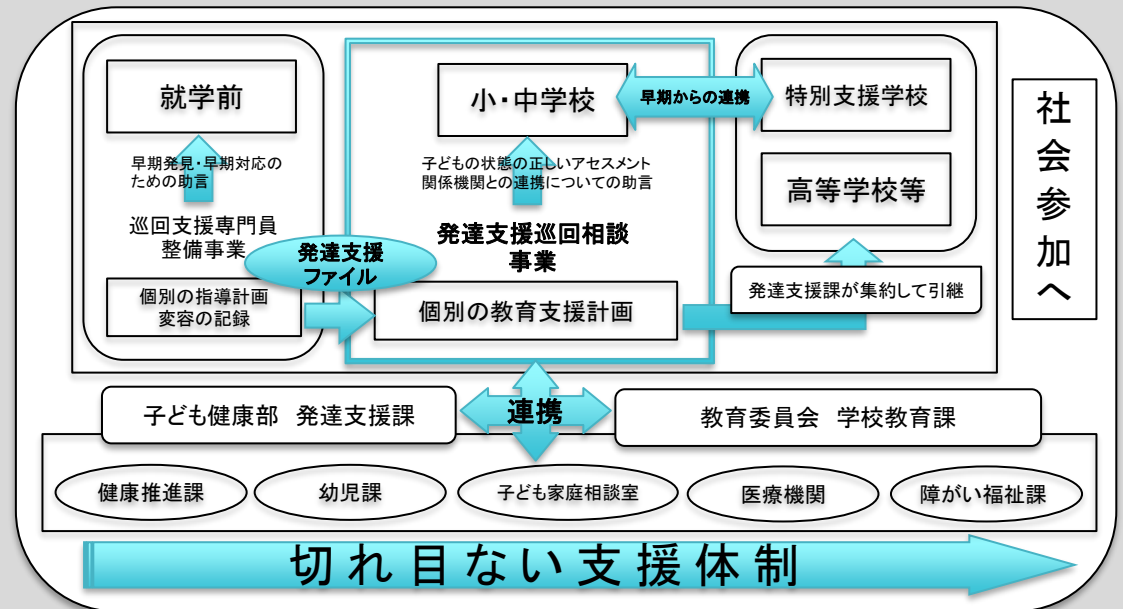
### ②巡回相談員（心理学や福祉・教育に係る専門家）による、小・中学校の通常学級への巡回相談

令和2年度：39回、175名  
令和3年度：42回、167名  
令和4年度：36回、151名

- ・子どもの状態の見極めと、関係機関への連携の必要性を助言
- ・巡回相談担当課が窓口となり、学校と関係機関との連携をコーディネート

### ③個別の教育支援計画等の情報の確実な引継ぎ

- ・就学前施設から小学校、小学校から中学校、中学校から高等学校等へ
- ・18歳までの継続的な相談に対応



社会参加へ